

「SIP4D を使った情報共有を充実させる」

取出 新吾（防災科研 首都圏レジリエンス研究センター兼総合防災情報センターセンター長補佐）

取出氏は SIP4D（基盤的防災情報流通ネットワーク）について「防災に関わる情報を府省庁間で連携させるもので、例えば国交省が持っている気象データやため池データベース、自治体などが持つばらばらにある情報を、一つの土管を通じて必要な人に流通させる仕組みである」と説明しました。研究機関の他にも、災害対応の実働の現場の人々に使えるようにし、災害復旧の効率化につなげていることを語りました。

台風 15 号で課題になった停電については SIP4D が倒木の撤去に活用されたことについて説明。KDDI や NTT ドコモ、ソフトバンク、NTT 東日本、東京電力、防衛省、千葉県が別々に動いていたものの、そこから収集したデータを SIP4D 上に流して、一つの地図にまとめたことを紹介しました。「自衛隊が作業をしたり、各キャリアや電力会社が依頼した工事事業者が作業をする際に使ってもらった」ということです。共通フォームによる被害の可視化が災害復旧の効率化につながるということを説明しました（図 1）。

一方で「SIP4D を流通している行政のデータは、避難所情報のように、企業の皆さんに全て流通できるわけではない」とし、「企業と情報共有をしつつ、防災科研で災害対応や研究推進に使うために預かりたいデータもあると思っている」と取り扱う情報には慎重な姿勢を見せました。

さらなる情報共有の仕組み作りについて取出氏は「企業で防災・災害対応に関わる情報をやりとりするスキームを開発して設置する必要があると思う。令和 2 年度に向けて企業と幅広い情報を流通させる仕組みのための予算要求をしようとしている」と説明しました。具体的には 2 種類の仕組みを構想中で、一つは企業に防災科研が持っている情報を流通させる仕組み、もう一つは、企業が持っている情報を預かったり使ったり、もしくは企業間同士でデータのやりとりをできる場所の整備とのことです。



SIP4D について説明する取出氏